

報告書について

はじめに

この報告書は事務局が、各学年の練習中・交歓会・諸大会等に起こった怪我等のアクシデントの内容を把握するためとともに、各学年にフィードバックし、再発防止のために活用するためのものです。したがって、あくまでもケガ等の把握のためのもので、責任を問うものではありません。

Q. 1 どういう場合に提出するのか？

A. 1 基本、報告書①に記載してある項目の怪我が発生した場合に提出ください。

- | | |
|----------|----------------------|
| 1. ケガ | 5. ショック(アナフラシー・心不全等) |
| 2. 骨折 | 6. 熱中症 |
| 3. 脳震盪 | 7. その他 |
| 4. 脳震盪疑い | |

Q. 2 骨折は分かるが、ケガとはどのくらいまでのことを言うのか？

A. 2 病院で診察をした場合のみを指します。

例えば、「練習中に病院に行った」「練習後、レントゲンを撮影した」は、異常がなくても報告が必要になります。

したがって打撲・擦り傷・捻挫等は含みません。しかし、捻挫はまれに骨折を認めるケースがあります。もし診察した場合は、ご報告願います。

Q. 3 報告書②原因・状況・対応についてはどう書くのか？

A. 3 下記を簡潔にお書きください。

1. いつ、どこで
2. どうなった
3. 何が原因で
4. その後どう対応した

Q. 4 誰が記載するのか？

A. 4 各学年チーフコーチ・監督が記載願います。

Q. 5 誰に提出すればいいのか？また報告は、報告書だけでいいのか？

A. 5 報告書は、事務局長に提出願います。また不在の場合は学年担当事務局に提出願います。

ケガやアクシデントが発生した場合は、至急口頭で事務局にご連絡下さい。

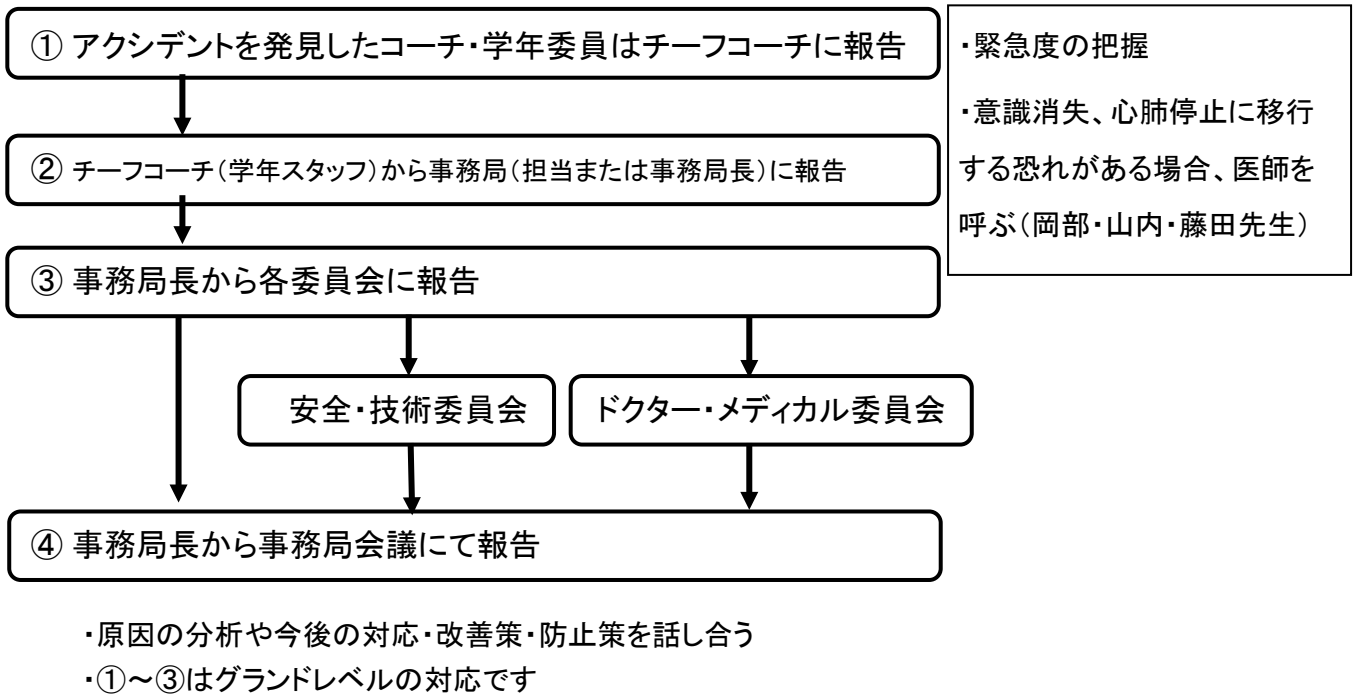
報告の手順を示します。

報告の手順について

グラウンドレベルで、報告書①にある種類のものが起こった場合、口頭での報告とレポートとしてのクラブ内報告のそれぞれの流れにそに対応します。

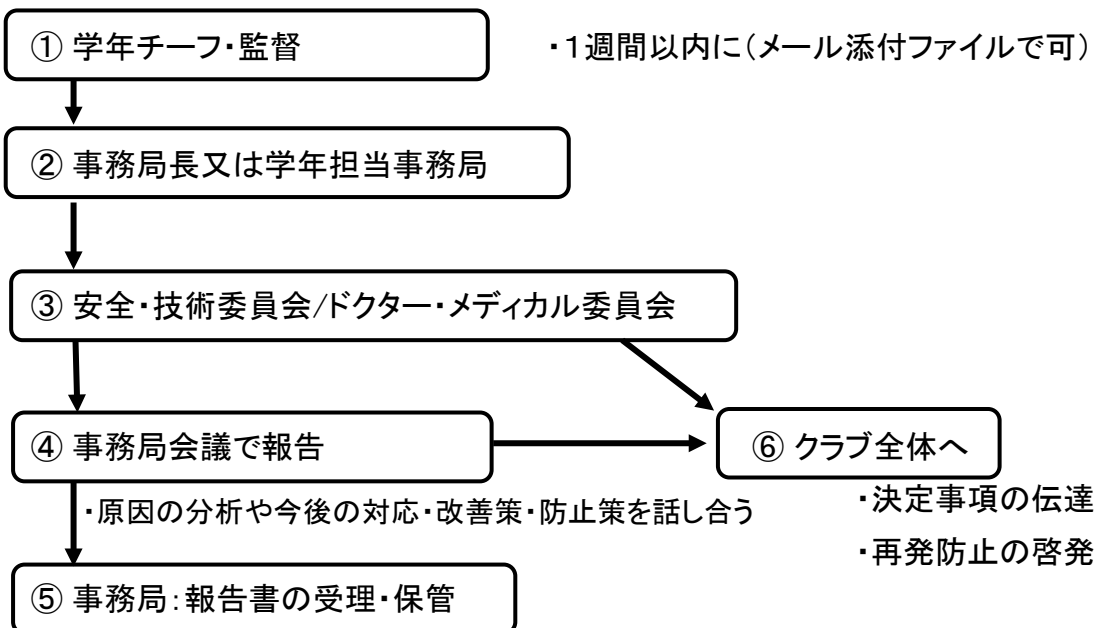
《口頭での報告の流れ》

※緊急を要する事案の場合はこの限りではありません。



《報告書での報告の流れ》

※緊急を要する事案の場合はこの限りではありません。



報告書

選手名 小・中 学 年生 歳	発生日平成 年 月 日 () 時 分
	学年
	報告日平成 年 月 日 報告者

①報告の種類にあてはまるものにチェックをして下さい。

ケガ : 種類・部位 ()	ショック(出血性・心不全・アナフィキシー)
骨折 : 部位 ()	熱中症
脳震盪	その他
脳震盪の疑い	

②原因・状況・対応等について記載して下さい。

--

	会長	事務局長	現場指導者	安全・対応員

※このレポートはあくまでもケガ等の把握のためのもので、責任を問うものではありません。
草ヶ江ヤングラガーズクラブ 事務局長